

a 学校教育目標		ふるさとを愛し、鍛えよ『知・徳・体』		b 経営理念（ミッション・ビジョン）		【ミッション】(自校の使命) ○自分を愛し、夢を語る児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像) ○主体的な学びが育まれる学校 ○夢や志があり、誰もが通ってみたい学校 ○地域の活力の源として信頼される学校										
評価計画						自己評価					改善方策		Ⅰ 学校運営協議会 評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月 h 達成値	1月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	改善方策	評 価 イ ロ ハ			コメント	
確かな学力	主体的・対話的で深い学びの創造	主体的な学びに向けた授業づくり	○小・中の教員が一体となった教育研究の推進 ・教員のファシリテート力の向上 ・R80を核とした授業デザイン力の向上 ○TT配置による算数科の学力向上・授業改善 ○デジタル指導書やクロームブックの効果的な活用	児童アンケート「授業の内容がよくわかりますか」に肯定的回答をした児童の割合	85%	91.2%		107.2%	A	肯定的回答は、1・5・6学年は90%、第2・4学年は100%であった。 第3学年は77.7%であり、日々の授業改善の必要がある。 また、「思わない」と答える児童は、学力が低い児童ばかりではないことから、個別最適な支援が必要である。	R80を軸とした、学習のめあてとまとめ・振り返りが一体化した授業づくりに日々取り組んでいく。 研究授業や校内研修を通して、授業づくりについて理解を深めていく。 また、暮会の時間などを活用し、日々教員同士で教材研究や授業づくりについて交流していく。					
			○TT配置による算数科の学力向上・授業改善 ○デジタル指導書やクロームブックの効果的な活用	単元末テスト(国語・算数・理科)の通過率	85%	<各教科> 国語83.8% 算数84.1% 理科85.2%		99.1%	B	単元末テストの通過率は、国語83.8%、算数84.1%、理科85.2%であった。 低学年はどちらの教科も85%以上の通過率であったが、3～6年の国語ではどの学年も達成できなかった。 また、高学年の算数科の達成率が80%を下回っており、学力の底上げが必要である。	日々の学習だけでなく、ドリルタイムで課題のある単元を中心に反復学習していく。 また、ドリルタイムでは担任以外の教員と連携し複数体制で児童の指導にあたる。 基本的な知識・技能だけでなく、文章を読む問題に取り組んだり、振り返りなどを活用して自分の考えをまとめる習慣を身につけたりさせていく。					
		家庭学習の充実	○学習チャレンジデーの工夫改善、やり方の指導 ○家庭学習の習慣化、量(時間)の増加・質の向上	児童アンケート「学習チャレンジデーで自分が定めた目標ができた」に肯定的回答をした児童の割合	85%	93.3%		109.7%	A	肯定的回答は、全学年で85%を上回っていた。頑張っている児童のノートや取組について紹介したり掲示したりする工夫も見られる。 否定的回答の児童が固定化しないような声かけや取組が必要である。	引き続き、学習チャレンジデーに取り組む。 頑張っている児童の取組を紹介・交流することで手本を示し、内容や取組を深める意識を育てる。 また、家庭学習が困難な児童には、家庭と連携し個別の対応をとるなど、学習に取り組める環境づくりを行う。合わせて教員間で連携し家庭学習の量なども適時調整していく。					
豊かな心	自己肯定感が高い心豊かな子供の育成	不登校の未然防止 地域貢献意識の向上	○OSSRを核とした不登校対策、相談体制の充実 ○「生徒指導実践上の視点」に基づく教育活動の展開 ○児童会活動の活性化(自治能力の育成) ○体験活動の充実(自然・文化・地域人材の活用)	児童アンケート「自分には良いところがありますか」に肯定的回答をした児童の割合	85%	88.3%		103.8%	A	不登校対策支援会議、教育相談委員会の定期開催により、細かな情報共有と対応ができている。 課題の早期発見・早期対応により、安心安全な学校風土を作ることができている。 児童会が発案した、お互いの良さを認め合う活動が全校で行われている。そのことによってお互いの良さを見つけようとする児童が増えていていると考える。 山海島体験活動・修学旅行・社会見学等を計画的に実施している。低学年は地域の方々と探検に出かけるなど、地域とのつながりを深めた。	細かな情報共有と対応を継続する。 注意喚起・情報共有等をこまめに行うことで、課題の未然防止に努める。 児童会活動を活性化させ、異学年交流を促進させることで、自己肯定感を高める。 引き続き社会見学等の体験活動を予定通り実施する。					
健やかな身体	体力向上と基本的な生活習慣の育成	体力づくりの充実 健康教育・食育の推進	○9年間を見通した体力づくり ○体力テスト結果で明らかとなった課題克服に向けた具体的な運動の実施・推奨 ○「金のルール」等に基づく生活指導(早寝・早起き・朝ご飯・正しい食生活への関心の向上)、保護者啓発	児童アンケート「運動することは好きですか」に肯定的回答をした児童の割合	90%	81.2%		90.2%	B	「運動が好きか」の問いに「そう思う」または「どちらかといえば、そう思う」と答えた児童は、81.2%となり、目標値を達成することができなかった。 運動が好きな児童を増やしていくために児童会を中心とした全校遊びや体育朝会を実施してきたが、もっと児童が継続的に「外で遊びたい、運動をしたい」と思うような具体的な遊びの紹介なども必要であった。	体力テストの結果を受けて2学期から始めた「なわとび朝会」を継続させ、子供たちの体力や運動能力の向上を図る。 また、縄跳びカードを有効に活用して体育朝会や学級活動・体育の授業を改善していく。 児童会を中心に全校で運動をする時間をつくり、遊ぶことや体を動かすことを楽しく感じさせるとともに、体を動かすことが好きな児童を増やしていく。					
開かれた学校	地域と協働した教育活動の展開(コミュニティ・スクールの推進)	郷土愛の醸成 地域全体で子供たちを育てる体制づくり	○CSの理念や意義の周知・啓発、積極的な情報発信 ○運営協議会・協働本部・活動推進員による取組推進 ○施設一体型連携校としての強みを活かす取組づくり ○地域と協働した防災や交通安全等の教育活動の実施	児童アンケート「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」に肯定的回答をした児童の割合	85%	86.7%		102.0%	A	児童アンケートでは、地域に貢献したいと思っている児童が86%である。 本年度から始まったCSにおいて地域の方と一緒に活動をしたり、地域行事に係わったりしていることで、地域に関心をもつことができている。	引き続き、CSによる地域人材を活用した活動ができるよう計画的に推進していく。 また、コーディネーターとの連携を図り、充実した学習が行えるように取り組む。					
働き方改革	風通しの良い職場づくり	不祥事根絶	○教職員の資質向上に向けた積極的な研修・研鑽 ○ヒヤリ・ハット事案の洗い出し・共有化・即時対応 ○時間外時間の管理(45時間/月)、定時退校日の徹底 ○ボトムアップによる業務改善、働く者の意識改革	保護者アンケート「本校の教育活動に満足している」に肯定的回答をした保護者の割合	85%	95.2%		112.0%	A	保護者アンケートでは、肯定的な評価が95.2%となっており、本校の教育活動におおむね満足しているという回答をいただいた。	引き続き、学校だよりや学級通信などで学校の様子について情報発信を行い、学校への理解を促進する。 また、児童が安心・安全に過ごしていけるよう日々の声かけ等の取組を継続する。					
	ワークライフバランスの確立	長時間勤務の縮減		時間外の在校時間が月45時間以内の職員の割合	85%	83.0%		97.0%	B	1学期前半は、学級事務などの業務が多く時間外在勤時間が45時間を超える職員が多かった。 成績処理週間の設定や学期始めの授業カットを計画的に実施して業務時間を確保したことで、45時間を超える職員が減少した。	見直しをもって業務が行えるように主任・主事を中心に、早めの起案・周知ができるようにする。 授業時数の管理を行いながら、計画的に業務時間の確保をしていく。					

【j：自己評価 評価】

A：100≦(目標達成)

B：80≦(ほぼ達成)<100

C：60≦(もう少し)<80

D：(できていない)<60

【Ⅰ：学校運営協議会 評価】

イ：自己評価は適正である

ロ：自己評価は適正でない ハ：わからない